

特集

早慶ライブラリーブックシェア・
早慶ライブラリーパスポート

特集にあたって

あさお ちかこ
浅尾千夏子

(三田メディアセンター課長)

2024年4月、早稲田大学図書館と慶應義塾大学メディアセンターは、新たに「早慶ライブラリーブックシェア」(以下「ブックシェア」とする)および「早慶ライブラリーパスポート」(以下「パスポート」とする)の2つのサービスを開始した。

本特集では、これらのサービスの背景と経緯、新機能導入の課題、サービス開始後の状況等について、慶應側の担当者から報告するとともに、早慶の担当者で実施した座談会記事を収録している。

「ブックシェア」「パスポート」サービスは、1986年に締結された早稲田大学との図書館相互利用に関する協定、そして2019年9月より開始した早慶図書館システムの共同運用を基盤とするものである。この共同運用にあたり、図書館システムに求める重要な要件として「早稲田と慶應の図書館がまるで一つであるかのようにCirculationやResource Sharingができること」を掲げており、また共同運用後の早慶の連携をさらに進めていく構想として、第1段階を協定書・実施要綱内でのサービス拡大、第2段階を新たな図書館システムの機能を活用したサービス拡

大と設定し¹⁾実現に向けた準備を進めてきた(表1)。第1段階は、新型コロナウイルス感染症の影響で相互訪問が困難になったことを契機に、常勤教職員対象に非来館での利用登録・資料貸出として実現し、今回の「ブックシェア」により、第2段階で目指していたAlma Fulfillment Network機能(以下「相互受取・貸出機能」とする)を使った個人間の相互貸出が実現した。さらに、「ブックシェア」検討段階で副次的に生まれた「パスポート」によって、相互来館の利便性が向上する結果となった。

本稿執筆時点(2025年7月)において、「ブックシェア」の対象者は大学院生および専任教職員に限定されているが、今後さらなる対象拡大を見据え、引き続き早慶が連携・協力関係を維持しながら、持続可能な発展を目指していきたい。

注・引用文献

- 1) 岡野純子. CirculationからFulfillmentへー早慶図書館システム共同運用の先に見えるものー. MediaNet. 2020, No. 27. p 28-31.

表1 サービス開始までの道のり

2021年9月	Ex Libris社Almaの相互受取・貸出機能の紹介ワークショップに参加
11月	早慶相互利用における新サービス(後のブックシェア、パスポート)に関する懇談を開始
2022年2月	相互受取・貸出機能の検討開始
5月	Ex Libris社による相互受取・貸出機能設定のためのワークショップに参加
10月	早慶の閲覧チームでの月例会を開催。検証の進め方・検証シナリオについて協議(以後継続)
2023年6月	新サービスの運用に関わる閲覧・システム・ディスカバリーチームのリーダー会議を開催(以後継続)
9月	早慶の運用プラン(運用ルール詳細)が確定
10月	ライブラリーパスポートの試行サービス開始(三田メディアセンター)
12月	スタッフ向け説明会の実施およびスタッフマニュアルを整備
2024年2月	本番環境稼働前の最終検証実施
3月	本番環境にて相互受取・貸出機能の稼働開始。KOSMOS上に利用登録・取寄せボタンの表示開始
4月	ライブラリーブックシェア:「常勤教職員」「名誉教授」を対象にサービス開始 ライブラリーパスポート:「学部生」「大学院生」「専任教職員」を対象にサービス開始
11月	ライブラリーブックシェア:「大学院生」にサービス拡大 サービス名称を「早慶ライブラリーブックシェア」「早慶ライブラリーパスポート」とし、早慶でプレスリリース掲載
2025年3月	早慶相互利用実施要綱、および補足資料の改定手続き
4月	試行サービスから正式サービスへ移行